

## こみち 自然の小径

気楽に歩ける散歩道



休暇村 おうみはちまん  
自然にときめくリゾート 近江八幡  
滋賀県近江八幡市沖島町宮ヶ浜  
TEL 0748-32-3138

### ⑨ タニウツギ

この辺りは、様々な花や実を付けた植物がありますが、中でもタニウツギ（スイカズラ科）は琵琶湖の気候を物語っています。タニウツギは主として日本海側に多い植物ですが、琵琶湖畔は北陸型の気候のため、この辺りでも多く見られます。落葉低木で初夏には小枝の先に紅色の花、稀に白い花をつけます。その他にも、ゆっくり少人数で歩いていると、小動物たちに出会えるかもしれません。

### ⑩ セントラルロッジからの景色

桜の季節であれば、キャンプ場を後にする前に、足を止めてみよう。とても美しい桜の木々が立ち並んでいます。



#### ～ウォーキングについて～

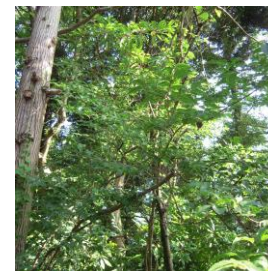
- ウォーキングはひとそれぞれのペースで楽しむことが大切です。
- スニーカーやウォーキングシューズなどの歩きやすい靴を着用しましょう。
- ウォーキングによって生じる疲労を回復するためには、休息をたっぷりとることが大切です。
- こまめに水分補給を行きましょう。

### ⑥ アジサイ

アジサイ科アジサイ属の植物です。6～7月に紫色のきれいな花を咲かせます。花の色は色素や土壌、開花からの日数により変化します。一般的に土壌が酸性なら青、アルカリ性なら赤と言われていますがあくまでも花色を決定する要因の1つで一概に言えないようです。



### ⑦ ヌルデ・ノダフジ



ヌルデ（ウルシ科）・ノダフジ（マメ科）といった植物があります。ヌルデは別名ヌルデモミジと言われる程に秋の紅葉がとても美しく、夏には白い小さな花をたくさん咲かせます。ノダフジはつるが右巻きで花の房が長く、葉の枚数多いのが特徴です。

### ⑧ むべの木

昔から長命の果実として親しまれていた「むべの実」が休暇村キャンプ場内でも見ることができます。むべはアケビ科ですが、その中でも特筆に値します。葉は常緑革質で艶があり、葉の数は7・5・3でめでたいものとされています。言い伝えによれば天智天皇が行幸された時、村人に長命者が多かったので訪ねた所、「この実を食べているからです。」とむべの実を見せたといわれています。なかでも近江八幡市内の沖島のむべは、昔、京都御所へ献上していたことでも有名です。



### ① 柿の木

東館から降りてくると、宮ヶ浜の入り口に柿の木が立っています。柿はカキノキ科の落葉高木で、秋には黄赤の果実をつけます。



### ② 宮ヶ浜

休暇村前に広がる宮ヶ浜は水鳥達の楽園です。特に冬になると、たくさんのカモ達がロシアや中国の北部などからも渡ってきます。琵琶湖は冬になっても凍ることは無く水草や魚などのえさが豊富なためです。「滋賀の鳥」に選ばれているカイツブリは、昔から琵琶湖に多いことから琵琶湖の代名詞として詩歌によく歌われています。夏の間カイツブリの羽は色彩が鮮やかで美しい、もちろん冬に宮ヶ浜でもカイツブリに会うことができます。

### ③ 沖島

宮ヶ浜の沖合約2kmに浮かぶ沖島は、琵琶湖最大の島です。周囲12km、面積約1.5km<sup>2</sup>で約400人の人が住んでおり、湖沼の島に人が住む例は、世界的に珍しく注目されています。島内には、奥津島神社や西福寺など古くから由緒のある寺院があります。伝承では、保元・平治の乱で敗れた清和源氏の流れを汲む落ち武者が島を開拓し定住したのが始まりと伝えられています。



●距離…約2km ●所要時間…約60分

### ④ 芝生広場からの風景

琵琶湖は日本最大の湖であり、日本でもっとも古い湖です。その為、琵琶湖固有の生物が多く、ビワマス・ホンモロコ・セタシジミ等が生息しています。最近では外来種の侵入や、内湖の消失等による環境の変化から固有種の漁獲高が減少し、大きな問題になっています。



### ⑤ やまもも

花期は3・4月小さな目立たない花をつけます。6月ごろに黒赤色の実を結びます。生で食用になり、果実は甘酸っぱくジャムや果実酒に加工されます。

